



# ふるさとを想う——

「ふるさとを語りたい」「何年経っても生まれ故郷が忘れられない」郷里を離れ生活を送る皆さんの、そんな思いから東京金山会は誕生。それから60年、故郷を想う大きな愛情が遠地に根づき、会は発展してきました。築いてきた絆はまるで金山杉のように、これからも大きく太く成長していくことでしょう。

東京金山会第60回記念総会「ふるさとを語る集い」が6月17日、東京都荒川区内のホテルで開催されました。関東地方在住の町出身者と、町から駆けつけた有志をあわせ約200名が出席。再会を果たした同級生らと昔話に花を咲かせたり、近況を報告したりと、大いに盛り上がりました。

初代会長を務めた伊藤長助さんが仲間とともに立ち上がり、東京金山会を発足したのが昭和34年。東京への集団就職や出稼ぎが盛んだったこの頃、上京した多くの町出身者の心の拠り所となりました。

それから60年。会は大きな発展を遂げました。「故郷金山のことを忘れたことはない」。これは多くの参加者が口にしてきたこと。いくら時が経っても、距離が離れても、その思いが薄れることはありません。まるで金山杉のような太く大きな町出身者らの絆が、若い世代にも継承され、末永く結ばれ続けることを願います。

## 東京金山会会長に話を聞きました



東京金山会 会長  
大場 加枝子さん

### 「故郷を思う気持ち」が東京金山会を支える

会員の皆さんの「故郷を思う気持ち」が東京金山会の60年を支え、継続する力になりました。町からの支援を含め、多くの協力に心から感謝しています。

思えばこの60年、色々なことがありました。生まれも育ちも東京の私。金山町出身の夫と昭和32年に結婚し、会の立ち上げから関わりました。出席者が集まらず苦勞した時期も。先輩の方々が築いてきた歴史

があるから続けることができました。夫亡き後も、第55回以降会長を仰せつかっていることも金山との絆を強く感じています。

会員の高齢化など、今後に向けた課題もありますが、年代に関わらず故郷を思う気持ちは変わらないはず。ぜひ若い皆さんもご参加ください。東京金山会が70年、80年と末永く続いていくことを心から願っています。

## 最年少参加者に聞きました



五十嵐 瑛美さん  
(下向出身)

同じ有屋地区出身の方に誘われて、昨年から出席しています。普段金山出身の方との交流が少ないため、東京金山会はふるさとを思い出すとても貴重な機会です。20代や30代の若い世代がもっと参加すれば、今以上に盛り上がるはず。今後は同年代も誘って会に参加できればと思います。

## 昭和24年生まれの同級生に聞きました



岸 外志さん  
(片貝出身・中央)

年に一度、同級生に会える東京金山会。今年は金山から駆けつけてくれたみんなとも再会できました。ふたり(右:渡部俊治さん、左:地主純一さん)のように故郷のために活動している仲間を誇りに思います。私も遠く離れた地で、故郷金山のためにできることがないか、と考えさせられました。